

令和6年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	219	学校名	仙台市立西多賀中学校	校長名	木下 裕士
------	-----	-----	------------	-----	-------

1 取組のタイトル、テーマ

「身近な地域や環境との触れ合いや体験的な活動を通して」



2 取組の紹介

①省エネ活動

本校は、校内のほとんどの照明がLEDに切り替わっていますが、移動教室の際の消灯、エアコンの温度調節、使用していない教室・トイレは必要などのみ点灯するなど、電力使用量の削減を呼び掛け、省エネ活動に取り組んでいます。節電の意識は次第に定着してきていますが、今後も担任や委員会の生徒から働きかけることで、校内だけでなく日々の生活の中で、そのような取り組みを生徒一人一人が当たり前に行えるようになることを目指し、これからも取り組んでいきたいと考えています。



②地域クリーン活動

本校では地域連携・小中連携の一環として、近隣の三神峯公園や天沼公園を中心に清掃活動を行い、住みよい町づくりやより良い環境づくりのために、地域の一員として貢献することの大切さを学習しています。地域でボランティア活動などを行っている方々の協力もいただき、一緒に活動に取り組む中で生徒の地域活動への参加意欲にも高まりが見られています。今年度は、11月に地域の方々や小学校の児童たちと共に、1年生が三神峯公園、3年生が天沼公園で落ち葉拾いや清掃活動を行いました。三神峯公園では、落ち葉から肥料を作るなど自然のリサイクルについても学んでいます。



③ゴミ袋・紙の削減活動

本校では給食の後片付けの際に、各クラスで牛乳パックと燃えるゴミを同じ袋に捨てて処分することで、ゴミ袋の使用枚数削減に取り組んでいます。また、クラスで「燃えるゴミ」と「プラスチックごみ」の分別・収集を進める中で、小さな紙ごみが燃えるゴミに捨てられることが多いので改善したいという生徒から提案があり、各教室に専用のごみ箱やボックスを設置し、それらを整備委員が回収するという取組を行っています。



3 取組の成果（児童生徒の変容）

校内では、生徒たちが教室移動の際の消灯やごみの分別収集などを行う様子が見られます。これらは、日常生活の中で、気づいたことや些細なことでも継続して取り組むことを大切にし、活動を進めてきた成果だと思います。また、授業でも身近な取組から、エネルギーや環境問題等について横断的に学習できるよう各教科が工夫し取り組むことで、自分事として考える姿勢につながると考えています。地域のボランティア活動にも関心を持つ生徒が増えてきています。

これからも、学校生活の中で生徒会や委員会が中心となり自分たちで考え発信する力や、身近な生活の中で自分たちが実践できることは何かを考え、行動する力をより高められるよう取り組んでいきたいと考えています。